

第2回 学校運営協議会

10月7日(月)に開催されました。

1 熟議

第1回学校運営協議会の意見交換を踏まえて、地域のニーズに関するテーマ①と学校のニーズに関するテーマ②を設定しました。

- テーマ① 「地元企業への就職率を高めるための企業・高校連携について」
テーマ② 「入学志願者を増加させるための小学校・中学校・高校連携について」

校長及び教頭による学校の現状等の説明後に、2つのグループに分かれ、まず、良い面と悪い面を出し合いました。次に、良い面をさらによくするために、悪い面を改善するために、今後の基本的な方針・方向性と具体的な方策について話し合いがなされました。

多くの意見が出されましたが、主なものは下記のとおりです。



[テーマ①]

- ・就職の応募から採用までの仕組みはできているが、プラスαの工夫が必要である。
- ・企業や地元市町村との連携はあるので、それをさらに充実させる。
- ・インターンシップが実施されているが、日数が少ない。インターンシップの期間が長くなると良い。
- ・企業説明会などをSNSで流す。SNSで多くの情報にすぐアクセスできるようにする。
- ・SNSを活用しながら、卒業生にリアルな就労体験を伝えてもらう。

[テーマ②]

- ・既に学校紹介は様々な形でなされているが、生徒の実体験を伝えたり成果物を示したりと小中への働きかけができると良い。
- ・商工では資格取得ができる。商業科・工業科への進学を勧めるためにも、資格取得も含めたアピールを行う。
- ・高校進学に関しては、保護者の意見のウエイトも大きいので、保護者へのアピールを強化すると良い。
- ・『商工だより』は館林商工高校を理解してもらう良い媒体となるが、配布先が少ない。配布先を増やせると良い。

2 助言

文部科学省総合教育政策局 CSマイスター 朝倉美由紀氏(明星大学教育学部特任教授)よりご助言をいただきました。

主な内容な下記のとおりです。

- ・高校ではテーマ型の取組が多い。総合的な探究の時間や就業に関する学びの時間等で、教育課程に組み込むことになる。
- ・生徒が、学びを通じて課題解決能力を身につけ、社会で生きていけるようにする。
- ・この地域には、優良企業があり、生徒は就労イメージを持ちやすい。そのため、小中高と企業のエリア型の取組がありうる。
- ・議論した内容をどのように実行するかも、熟議によって具体化させる。
- ・まず、目指す生徒像と何をどのように行うのかという原型をしっかりと決める必要がある。
- ・生徒像やどのような学校を作りたいかを教員側から示すだけでなく、生徒からの意見を取り入れる必要がある。

全体の協議会后に、会長、校長、教頭、推進員及び県教育委員会指導主事とのやり取りの中でいただいた主な内容は下記のとおりです。

- ・子供たちの学びの在り方、そして、出口としてのキャリア教育の視点で教育課程を熟考して、活動の位置づけをする。
- ・課題解決能力は重要であり、生徒一人ひとりの未来の生き方に関わる。例えば、商品化についても、商品化する中で、商品管理の在り方等も学ぶことができる。自分が社会の中で、どのように貢献できるか考える機会となる。
- ・学校運営協議会においては、やりたいことがたくさん出てくる。優先順位を付ける必要がある。それを決めるためにも、目指す生徒像を明確にする必要がある。
- ・学校運営協議会には、責任と権限がある。取り組むべきことをしぼりこみ、スモールステップで行っていく。